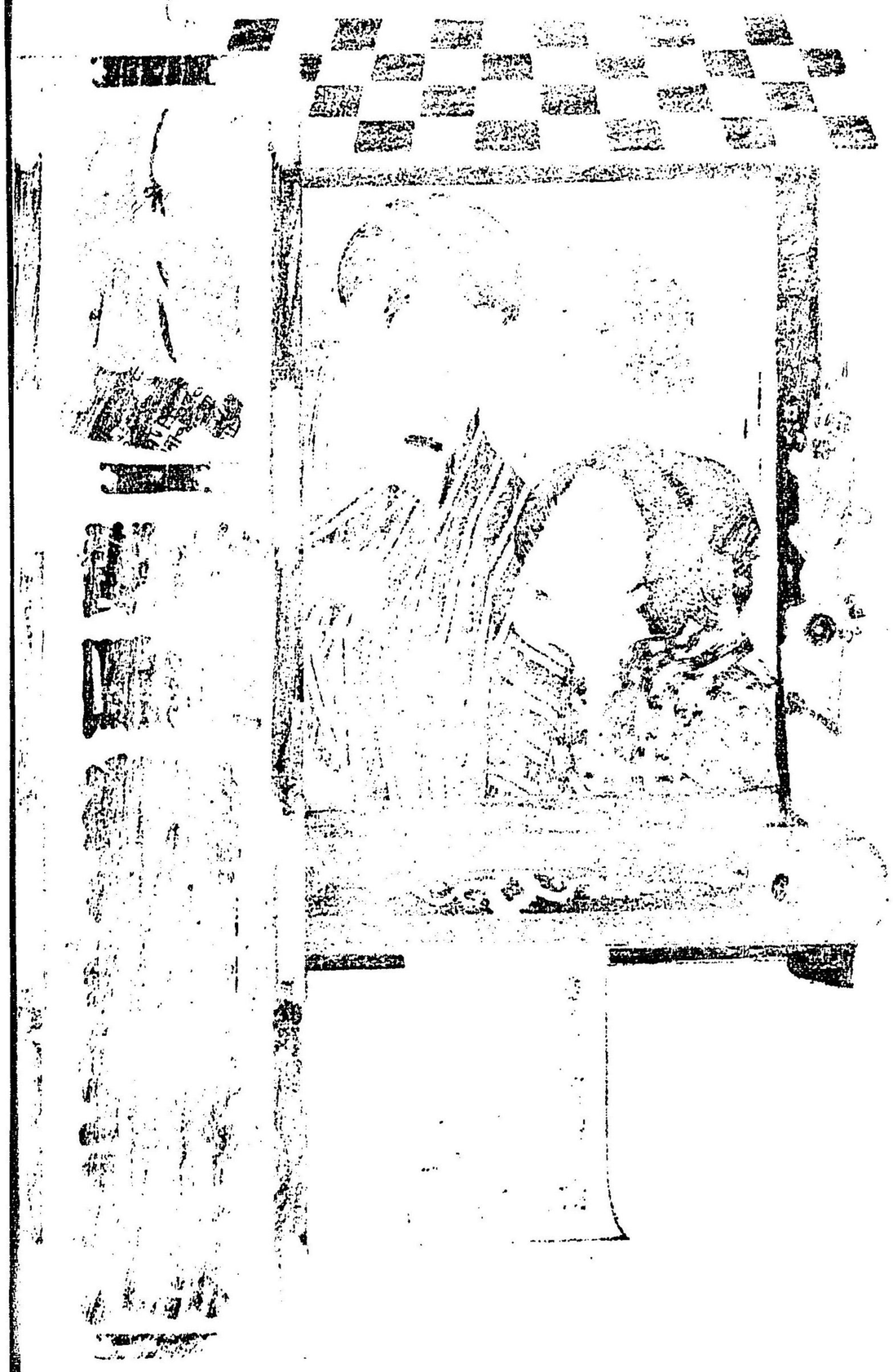
1271
特々
408



樂室壽々愛改正の口上

東西トザイー本第三編御覽に入升るゝ第二編の續き中島座狂言「御伽譚話幻稗史」を御覽に入べきの處右はお預と致し更ゑ當今開場中なる新富座十月狂言第一番目「三府五港寫幻燈」中幕「新曲紅葉狩」等の總評を御覽に入れ奉つり升る分て觀客樣へ申ー上升るは當壽々愛家記の儀初編二編と十葉て一本五錢ゑ販賣候處去るにてとお口になづまぬ方もありとの粹ゆゑ館員一同協議の上觀客樣の倦玉いぬやう六葉綴て一本を三錢と去又前々よりの御注文は五本を十三錢十本を二十四錢に引下げ續いて賣出ー候間相替らずの御愛顧をと壽々愛改正あつて蛤鍋の御馳走で祝盃を重々廻らぬ舌皷打鳴ーイヨーハーと兩手を突館の爲め口上サーヤウに御覽あをーい

鼠木戸は昔し今は

うづら述

●新富座十月狂言総評

三府五港寫幻燈　十幕

一番目序幕　上野停車場の場

（大谷門藏）代人野崎勘藏　散髪かづら黒羊服の拵らへい能けれどムグリ代人にい些と立派過たり一体此勘藏い三倉の代人を勧めて居ながら同家の息子富藏「左團次」が放蕩懶惰なるを附込を已が田へ水を引く目論見れ破廉恥極まる所業を見せる役なれば旗形にもせよ餘り立派過ぬ方よろしく思はれたり富藏「左團次」の臺詞の中に役是師の癖で兎角混雜を起したがるゼトあれば上等の代言人でいあるまじ何とか工風ありさー然ー持前の車輪で勧めるゆゑ仕業よ於ては難なー

（市川小半次）三倉の手代太助　散髪かづら双子の着附け手代の拵らへよし仕業もあければ評の做やうもなー

（市川好太郎）三倉の丁雅長松　是も評なし

（澤村源之助）待合湊屋のお富　髮の好みに差間へいなけれと藍鼠無地紋附の羽織ハ如何よ年若の藝妓あがりよもせよ待合茶屋の女將軍なれば穩の過て些とはや異なり今一息キリヽシヤンと做た好にして欲かッた富藏「左團次」を一人手放して後家の名物なる越後へ出立い不安心浮氣を做はせぬット少チン〳〵の思入い氣障ゲなくて中〻宜やられました

（中村磯楽六）湊屋の若者幸助　待合の若者よしては氣の利ぬ風なりーが山出しだッたかしら

（市川左團次）三倉の長男富藏　拵らへ萬端大商人の放蕩息子とい確よ見受たりお富「源之助」がチン〳〵でスチルを宥めトヾ若者三人に紙幣を遣けコレ親父よと默止て居ろよト木の頭道具廻すまでサラ〳〵してのけられーい流石に名人

同幕　清水觀音坂下の場

（市川小團次）士族森山正俊　着流しへコ帶にて仕込杖を持ち揚縁よりツカ〳〵出て何にも云ずず思入もなしに下手へ立ての脇へスーツーと這入たい何しに出て來たのゥ我〻の樣な愚眼にハ譯が分らず少しい何とかわりたゥつた市崎仙右衛門「團右衛門」よ無心を云ひ斷はられしトヾ突倒さを起上ッて後を見送り無慈悲を怒り歸途を待て討果さうとの云ふ息組にて揚縁へ一散よ駈込だ處よし

（市川團右衛門）市崎仙右衛門　白茨のつら編の羽織風股引長脚折よく娘「福助「升右」兩個を慰化迫より出臺詞あッて舞臺へ來り森山正俊「小團次」よ呼止められ兩個の娘を外（這り正俊よ金のゆしんを言れ斷はる所言葉遣ひの祖本なるのと人品の悪イ所い大商人とは見へず偖て正俊「小團次」ゞ貴樣も以前ハ茨城で人に知られた長脇差ト云ひーが人に知られた長脇差と云怪の品格い尚なし古鐵貫兼けいづやかはなーを貸て金を溜御原の土寸遣へ古衣屋之出ーたといふ人相なりし嫁におみよ「福助」の實父よい

●新富座十月狂言総評

三府五港寫幻燈　十幕

一番目序幕　上野停車場の場

（大谷門藏）代人野崎勘藏　散髪かづら黒洋服の拵らへゝ能けれどムグリ代人にゝ些と立派過たり一体此勘藏ゝ三倉の代人を勤めて居ながら同家の息子富藏「左團次」ゲ放蕩懶惰なるを附込と已が田へ水を引く目論見ゝ破廉恥極まる所業を見せる役なれば旅形にもせよ餘り立派過ぬ方よろしく思はれたり富藏「左團次」の臺詞の中に彼是師の癖で兎角混雜を起したがるせトあれば上等の代言人でゝあるまじ何とか工風ありさー然ー持前の車輪で勤めるゆゑ仕業ゝ於ては難なー

（市川小半次）三倉の手代太助　散髪かづら双子の着附け手代の拵らへよし仕業もあければ評の做やうもなー

（市川好太郎）三倉の丁雅長松　是も評なし

（澤村源之助）待合湊屋のお富　髪の好みに差間へいなけれど藍鼠無地紋附の羽織ハ如何ゝ年若の藝妓あがりよもせよ待合茶屋の女將軍なれば穩の過て些とはや異なり今一息キリ〳〵シヤンと做た好にして欲かッた富藏「左團次」を一人手放して後家の名物なる越後へ出立ゝ不安心浮氣を做はせぬゝト少チン〳〵の思入ゝ氣障ゲなくて中〻宜やられました

（中村碑梁六）湊屋の若者辛助　待合の若者ゝしては氣の利ぬ風なりーが山出しだッたかしら

（市川左團次）三倉の長男富藏「源之助」がチン〳〵でスチル息子とゝ確ゝ見受たりお富を宥めトゞ若者三人に紙幣を遣けコレ親父ゝと默止て居ろよト水の頭道具廻すまでサラ〳〵してのけられーゝ流石に名人

同幕　清水觀音坂下の場

（市川小團次）士族森山正俊　着流しへコ帶にて仕込杖を持ち揚幕よりツカ〳〵出て何にも云ゝず思入もなしに下手へ立直の脇へスーッと這入たゝ何しに出て來たのゝ我〻の樣な愚眼にハ譯が分らず少しい何とかわりたゝつた市崎仙右衛門「團右衛門」ゝ無心を云ひ斷はられしトゞ突倒さを起上ッて後を見送り無恐恐を怒ゝ歸途を待て討果さうとの云ふ息組にて揚幕へ一散ゝ駈込だ處ゝし

（市川團右衛門）市崎仙右衛門　白髮のつら縞の羽織風股引尻端折よゝ娘「福助、升若」兩個を巡化道より出臺詞あッて舞臺へ來り森山正俊「小團次」ゝ呼止められ兩個の娘を外（道り正俊ゝ金のひしんを盲れ斷はる所言葉道ひの粗木なるのと人品の惡イ所ゝ大商人とは見へず偖て正俊「小團次」ゲ貴樣も以前ハ茨城で人に知られた長脇差ト云ひーが人に知られた長脇差と云樣の品格ゝ倒なし古鐵眞兼けいつやかに日なーを貸て金を溜仰凡の土寸邊へ古衣屋ゝ出ーたといふ人相ゝりし然ゝおみよ「福助」の實父ゝハ

大不釣合なり正俊「小國次」の身形の悪きをさげすム金を貸されぬと嘲ばりトゞ突倒して引込い餘り亂妨な仕方と思はれたり

（市川升右）市崎の姉娘お絹　拵へ萬端出皆堅氣の善兵衛れ妻といい確に見受られたり下駄い盛なーの後齒の何歟にして貰のつた始終キロ〳〵ーて東京馴ぬ思入よし先這り役とーて門あり

（中村福助）市崎妹娘おみよ　いつもながら美麗〳〵大商人の秘藏娘とい充分なり此仙右衛門の娘にーてい餘り品格が能過た歟何よそろ效敬ぬボク〳〵翻れるやうでした

（市川金太郎）三倉娘お安　筋齒よは島田假髮とわりさが當世風の束髮よさきーい目先が替ッて能れど羽織が藤色の五所紋ゆゑ佐渡屋と言金貸商の娘とは見へず門跡の寺中何院かのお嬢さんか裁縫の勉强よ行るゝの歟ト疑はれ愛敬の薄い性質故り

（市川國十郎）銀行頭取菱戸治平　筋書には私立銀行頭取の拵へとありさが散髮假髮物の羽織著流しは些蛮格が薄く骨董屋の主人歟と疑はれたりおみよ「福助」の蛮詞中に「國十郎」の細川の奥方と誠に宜ムムりまーた「國十郎」併ー縫過の評判でしたと云ひしは大受〳〵おみよの後を見送り煙管を落してホイ又煙管を落したト木の頭道具廻る迄かんの事なく軽い事〳〵

同幕　木挽町三倉見世の場

（市川左團次）三倉與左衛門　天保時代の人らーい拵へ白髮頭の散髮云ひ分なー差配人久兵衛「喜知六」を始め長屋の者天鵞絨屋銀藏「升藏」魚屋平藏「摘次」大工の女房お松「國八」煙草商人福助「佐伊助」を呼ひ付け大根の頭が捨てあり たを探索し大では實利が悪い金持よはなとぬト植ゝ小言を云ふ吝嗇の思入充分よはきッて大受け〳〵トゞ差配人か先へ長屋の者四人暇を告げ門口へ出て與左衛門の噂

をするに内にて嘘をそるい餘り塩當り過たり夫より近藤辰雄「國十郎」が國の兄が大病ゆゑ明日出帆の山城丸にて歸縣おしたきに付き百圓貸て呉と氣の毒さうに云ふを斷はりを云ふ處先づよートゞ義理を捨ねば金い出來ぬト煙管の吹殼をハタかうとーて煙管に傷が付いていと云ふ。。。。けちん坊の思入れと一點の難なし。

同　鹿鳴館表門前殺の場

同　山下陸軍原捕縛の場

（市川國右衛門）警部渡邊時貞　持前の肥滿ゆゑ警部さんの直打はありまーた市崎仙右衛門の死骸を改めらるゝもサラ〳〵とよし

（市川佐伊三）巡査川村宗二　を始め他の三個もお骨折り〳〵

（市川小國次）士族森山正俊　巡査川村警部渡邊との談判中始終堅込でムるは持前の鈍凶腔ゆへ引立られて引込迄いゝにも人殺しを致たやうでムりました筋書にと蝙蝠傘と有まーたゞの仕込杖にされしとよー

同返し　芝櫻川町菱戸宅の場

（中村福助）市崎妹娘おみよ　實父仙右衛門ゞ非業の最期を愁ひゑ思入充分〳〵治平「國十郎」が飯の換り目に下女ゞ居ぬゑ見てお給仕を致ゑませうと云はるゝ所に勝一救撰の生子女〳〵

（市川升若）善兵衛女房お絹　其夫善兵衛が遠慮なゑよゞカ〳〵物を云をハラ〳〵すると云思入よふ演されまゑた

（坂東喜知六）菱戸下女お延　毎度おがら輕い〳〵お手に入たもこんな事は朝飯前の仕事

（市川鳶三郎）菱戸下女お琴唯美麗〳〵

（中村芝翫）稲田善兵衛　田舍風のポット假髮編の着附よ小紋の羽織お持前の質トが現をて田舍堅氣のお百姓い這り役〳〵

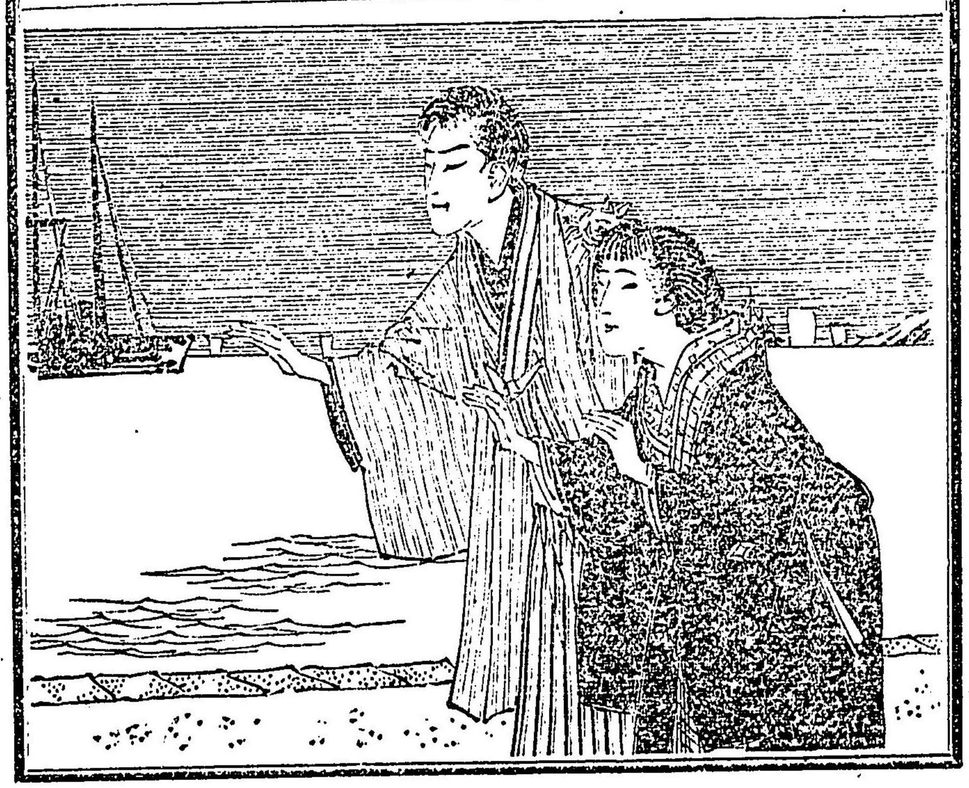
（市川團十郎）菱戸治平　師匠には袴羽織と有ては銀行頭取が袴羽織い異な物と思ひーゑ洋服ゑ換られたい感服サテ腹が減た膳を早くと下女に云ひ附ける折しも市崎の娘おみよ「福助」善兵衛夫婦が父仙右衛門が非業の死を告て始末を頼に來りしを聞て驚き夫はお困りだろふト異實なる思入夫より膳ゑ向ひ飯を喰ひおみよに見とれる氣味合サラ〳〵とよふムりました

同返し　横濱蒸氣船出帆の場

（市川金太郎）三倉妹　娘お安　兄と共に教師近藤が歸縣の見立ゑ來りーも出帆にて間に合す氣のもめる思入先頼なし

（市川佐伊助）上州屋手代吉　見苦勞〳〵

（市川小團次）三倉次男金次郎　教師近藤辰雄力へ歸縣の暇乞ひた〳〵父の頑固を詫びんゞ妹と共に來りーも出帆に遲れ間ゑ合ぬので氣のもめる思入充分〳〵



二幕目　芝公園御靈屋前の場

同　菱戸宅奥座敷夢の場

（市川左團次）三倉長男富藏　藝者を色にでも致やうといふ小意氣な若旦那の拵へは申分無れどおみよ（福助）ゑ戀慕して口説時の臺詞廻ゑが些惡者じみて妙だつたなれど是い治平が夢中の場ゆゑ敵何にーろ治平「團十郎」ト の立廻り面白ィ事〳〵

（中村福助）市崎娘おみよ　車夫ゑ置て行れ氣味の悪い所へ富藏「左團次」ゑ口説りを逃やうとーて次平「團十郎」ゑ行逢嬉ーゑ思入ゑふムりまーた菱戸の宅の場も治平の眞實を慕ふ氣味合可成〳〵煎茶の立前中手明を補ふのに烟草を飲ーは恍惚子娘ゑーてい些堂あろふゝ併し國州のお相手に見劣りのせぬはエライもんジャ〳〵

（市川佐伊助）人力車夫源八　富藏に頼まるおみよを置て行迄の役なれど餘りぞんざん過さり

（坂東喜知六）菱戸下女お延　鼠を追ひながらの可笑み輕い事〳〵おみよ「福助」治平「團十郎」の相手に成り兩個わからんでの可笑みの中とりわけ仙蓋節は大受〳〵

（坂東橘次）菱戸の車夫竹藏　生酔の思入先こんなものゝ

（中村芝翫）稲田善兵衛　前ゑも評如く田舍堅氣の正直なる結搆人を見せる迄ゆへ此優の常体を見る如くなりー

（市川團十郎）銀行頭取菱戸治平　市崎の娘おみよ「福助」に惚て北海道の道ゑから攜の中にて見ー夢ゑ芝公園にておみよの難義を救ひ宅へ連て歸ると云長夢の筋同處にて富藏「左團次」との立廻りは面白事〳〵住居の場は清元延壽の獨吟にて煎茶のお立前毎度ながらゆる〳〵と洛附たものおみよわ惚ても言出ー兼る思入わけもなく感ゑ堪まーた

同　北海道立場茶屋の場

（中村鶴藏）菱戸手代喜兵衛　國州の保養場にお相手は輕

い事〳〵こんなものゝ此優の持前トハ言ど實に年來の味を充分〳〵

（市川荒次郎）を始め北海道アイノ　何れも正寫し〳〵

（市川團八）立場亭主由兵衛　鼻へかゝつてコシと云ふ言葉が餘り多過るれで惡落が致たり

（市川升藏　駕舁三吉（市川小半次）駕舁松藏　先棒後棒ハ苦勞〳〵　祝儀は治平さんから貰ひなせへ

（市川團十郎）菱戸治平　旅勞れの駕籠の中でトロ〳〵でいあいグッスリ寢込だ夢に物たおみよの難儀を救ひヤレ嬉しいと云ふ肝腎要の處で眼が覺アイノか夫婦中の睦まじ況を見て一層感事を起こたるこなしい能のゝ惡いのゝ實に異だと云はんゝ妙だとや云はんゝ

（市川小團次）三倉次男金次郎　散髪のづら編の羽織こしらへい大商の若旦那といい確の〳〵然し一寸出さ斗りゆゑ別よ評をる處なし

（市川金太郎）三倉妹　娘お安　此場は父與左衛門に向ひ辰雄先生が常にない御心配の御容子で御無心よお出になりしにナゼ無氣にお斷はりにありまーさ責て五圓もお餞別よお上げなさればいゝにト意見をそる場なれどお年若ゆゑ今一息〳〵

（坂東喜知六）差配人久兵衛（市川升藏）天麩羅屋銀藏（市川團八）大工女房お松（坂東橘次）魚屋半藏（市川左伊助）緑日商人清助　サテお長屋の衆お呼出しヤし升てお聞がしい處を伺苦勞さよ

（市川團十郎）近藤辰雄　衣裳かづらは好みヤし分なし與左衛門「左團次」よ金の無心を云ひ出して斷はられ歸る時一寸時計に目を付け時間をはかりて門口へ出で思案れ思入れさら〳〵として受ましよ

同三幕目

越後新潟會津屋の場

日和山下濱邊の場

（大道具）會津屋の場　サテ大道具方へ一寸半疊を打込み

やせう尤も誂へる人があるのゝ其通りを拵へたのだゝら道具方へ鉋を入れるゝ無理なやうだが道具方も少しゝ調べあければ役が濟まいと斯斷はッて置て惜まれ口を叩のう新潟縣下越後國新潟區の花街は四ケ所ありて第一等は古町通第二龍ケ谷小路「里俗下町と云ふ」第三は毘沙門島第四ゝ寺町「里俗脱弈小路よて」其の一等の古町通六番町「舊三ノ町」の會津屋の場にて遠見に山の書割を遣ひしは誰が好みゝ此古町ゝ大小樓軒を列ね山はさて置き鼻の先にある川〳〵さへ見へぬ所なり同日和山下濱邊の場に岩山がニョッキリ立て居たるは妙知氣林新潟は岩の無き處ゆゑ築港ごむづかしいと云ふ事は何方も先刻ゝ承知ならんに向後濱ゝら砂山よ做なれや一体全体此位ゐなことは新橋の若松屋の姐へ鈴八さんに聞いても譯ない話し道具方よ心なしが多いので作者俳優の腹腸を見せびらかそにと大閉口些と注意て呉なれや田舍者に笑われるスケ

（市川小團次）新潟の藝子お稻　加役の替りもので毎度當りを取るは此優の專賣物今度のお稻も鈴八姐への差圖と見ゐて一斗樽をトンカラ叩いての幕明ゝ着附の好み盞詞廻しの半間さ加減本家本元の新潟藝子當込れた澤海屋のお稻そんが見なれたらおふわら〳〵妾だーと云ふは必定實よ上出來大立派なんでも物ごとい斯ありたい

（大谷門藏）野崎勘三　モグリ代言破廉耻家の氣組洋助「荒次郎」との談判の工合充分はまつて大受〳〵

（市川荒次郎）山口洋助　無鳥島ゝ蝙蝠田舍代八ゝ生物知りでギス〳〵したこなー先づこんなものゝ

（市川升藏）角力八ッ房梅吉　お手前物ゝ充分仕込萬事萬端脱目おくこなされーい實よ感心越後甚句の輕さゝけんは前〳〵ゝらのお仕入が見ゑました

（市川左團次）三倉長男富藏　豪家ゝ息子が放蕩懶惰なる氣味合はまり役〳〵今少し巧たいが物がゐるのゝ茲はこれぎり

（市川左喜之亟）新潟ゝ藝子おとゆん（市川升藏）同じくお

るん（市川米九）同じくおみす此藝子の本物は新潟で指中間丈けあつて演る俳優も指「いや云ふまい〳〵」を働らのじた三味線の本やりは沒苦勞さま

（市川小平次）角力逆さ竹虎吉　此優も常よりと餘程腕前を上げ甚句の輕さは驚ろきました

（中村芝翫）湊川渕五郎　評者が見物せー時と如何なる都合のお目よの〳〵らざりしゆゑ殘念ながら筆を置け

同四幕目　三倉宅紀念分の場

（市川左團次）三倉長男富藏　紀念の分方が不公平ありと云ひ張り平野三右衛門「芝翫」と爭論の工合また弟金次郎「小團次」妹お安「金太郎」れ諫むるも聞き入ず三右衛門よ打てゝ〳〵らんとするこなー金次郎お安を憎む等實よ此優ならでは斯は行まいと思ふ程の我儘振唯感心と云ふれ外ぁー

（市川小團次）三倉次男金太郎　可もなー不可も無し

（大谷門藏）代人野崎掛藏　ナー分ないと云ふまで

（市川金太郎）三倉長女お安　別よ仕業も無うら斯んなものか

（中村芝翫）平野三右衛門　何時もながらの芝居師ゆゑ高評も得ねば缺評も受ぬは愛嬌者〳〵

（市川團十郎）菱戸治平　是と銀行れ役員丈けありて萬事のこあー賤ーからず又た猛うらず平野三右衛門「芝翫」と富藏「左團次」との爭論れ仲裁よ入り双方を容める等れこなー流石は親玉云ひ分は又四編わたッぷり

さらせ

樂室翁々愛定價表

●一部金三錢　●五部前金十三錢　●十部前金二十四錢

南葛飾郡須崎村八十二番地
編輯兼出版人　野口忠吉
明治二十年十一月　日御届